

第5 公営企業の業務の状況

1 電気事業

(1) 平成23年度予算及び経営状況

10発電所における年間総販売電力量を1億8,000万キロワットアワーと見込み、これを基礎に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、電気事業収益15億559万1千円、電気事業費用13億9,260万3千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入16億87万8千円、資本的支出4億5,485万7千円を計上し、資源の有効利用と販売電力量の増加を図るため、中小水力発電開発事業として平瀬発電所の建設事業を継続実施します。

なお、水力発電の経営は、気象条件に左右されますので、貯留水の効率的運用を図ることはもちろん、気象状況の早期把握、関係機関との密接な連携等を図り、販売電力量の確保による収入の増加と経費の効率的執行により経営の安定化に努力します。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第11表 平成23年度電気事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	増 減 (A)-(B)
年間総販売電力量	180,420 MWH	182,459 MWH	△2,039 MWH

第12表 平成23年度電気事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	平成23年度 当初予算額(A)	平成22年度 当初予算額(B)	比 較 (A)-(B)	(A)/(B)
収益的収入				
電気事業収益	1,505,591	1,570,875	△ 65,284	95.8
営業収益	1,499,224	1,564,691	△ 65,467	95.8
財務収益	3,163	4,263	△ 1,100	74.2
事業外収益	3,201	1,918	1,283	166.9
特別利益	3	3	0	100.0
収益的支出				
電気事業費用	1,392,603	1,425,276	△ 32,673	97.7
営業費用	1,269,522	1,289,821	△ 20,299	98.4
財務費用	70,879	81,992	△ 11,113	86.4
事業外費用	49,199	50,460	△ 1,261	97.5
特別損失	3	3	0	100.0
予備費	3,000	3,000	0	100.0
資本的収入				
資本的収入	1,600,878	1,000,929	599,949	159.9
資本剰余金	875	926	△ 51	94.5
固定資産収入	1,600,001	1,000,001	600,000	160.0
雑収入	2	2	0	100.0
資本的支出				
資本的支出	454,857	1,921,503	△ 1,466,646	23.7
建設費用	17,900	7,858	10,042	227.8
改良費用	195,119	72,732	122,387	268.3
投資	1	1	0	100.0
償還金	238,737	237,812	925	100.4
長期貸付金	0	1,600,000	△ 1,600,000	皆減
補助金返還金	100	100	0	100.0
予備費	3,000	3,000	0	100.0

(2) 平成22年度下半期の業務の概要

平成22年度は、降雨量が県下主要ダム地点で平年の103%となったものの、月ごとの降雨量の変動が大きかったため、平成22年度の販売電力量は目標に対して86.7%、電力料金収入は目標に対して97.4%となりました。

また、経営の安定を図る上から、より一層の経費の節減に努めるとともに、下半期における予算の補正では、電力料金収入の減等により、収益的収入予算においては、全体で4,903万2千円の減額補正を、収益的支出予算においては、物件費の減等により1,198万2千円の減額補正を行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において15億2,184万3千円、収益的支出において14億1,329万4千円、資本的収入において10億117万2千円、資本的支出において19億396万3千円となりました。

なお、中小水力発電開発事業として平瀬発電所の建設事業を継続実施しました。

第13表 企業債及び一時借入金の状況(電気事業)

区 分	発 行 総 額	償 還 額		平成22年度末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	4,549,000	237,811	2,587,851	1,961,149
錦川水系発電所	1,715,000	87,263	790,551	924,449
佐波川発電所	299,000	15,401	122,248	176,752
木屋川発電所	572,000	28,691	382,906	189,094
新阿武川発電所	248,000	11,899	104,084	143,916
生見川発電所	445,000	33,007	386,311	58,689
本郷川発電所	106,000	7,693	90,014	15,986
末武川発電所	844,000	38,583	491,158	352,842
小瀬川発電所	320,000	15,274	220,579	99,421
一 時 借 入 金	—	—	—	0

2 工業用水道事業

(1) 平成23年度予算及び経営状況

年間総給水量5億8,400万 m^3 と見込み、これを基礎に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、工業用水道事業収益73億5,537万4千円、工業用水道事業費用59億7,471万5千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入28億6,279万6千円、資本的支出59億7,698万円を計上し、企業債償還金25億9,804万1千円のほか、工業用水の安定供給のため、改良事業として厚東川改築事業などを引き続き実施します。

なお、工業用水の安定した供給に努めるとともに、引き続き、需要の開拓をはじめ、諸施策に取り組み、工業用水道事業会計の経営基盤強化に努力します。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第14表 平成23年度工業用水道事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	増 減 (A)-(B)
年 間 総 給 水 量	583,909,080 m^3	581,817,300 m^3	2,091,780 m^3

第15表 平成23年度工業用水道事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	平成23年度 当初予算額(A)	平成22年度 当初予算額(B)	比 較 (A)-(B)	(A)/(B)
収益的収入				
工業用水道事業収益	7,355,374	7,320,900	34,474	100.5
営業収益	7,347,888	7,311,122	36,766	100.5
営業外収益	7,481	9,773	△ 2,292	76.5
事業外収益	2	2	0	100.0
特別利益	3	3	0	100.0
収益的支出				
工業用水道事業費用	5,974,715	6,091,283	△ 116,568	98.1
営業費用	5,175,638	5,141,526	34,112	100.7
営業外費用	788,202	939,481	△ 151,279	83.9
事業外費用	773	174	599	444.3
特別損失	102	102	0	100.0
予備費	10,000	10,000	0	100.0
資本的収入				
資本的収入	2,862,796	2,139,947	722,849	133.8
企業債	1,870,000	1,144,000	726,000	163.5
長期借入金	306,719	361,361	△ 54,642	84.9
資本剰余金	528,828	559,184	△ 30,356	94.6
固定資産収入	1	1	0	100.0
雑収入	157,248	75,401	81,847	208.5
資本的支出				
資本的支出	5,976,980	4,930,741	1,046,239	121.2
建設費	206,488	208,300	△ 1,812	99.1
改良費	3,162,450	1,844,408	1,318,042	171.5
投資	1	1	0	100.0
償還金	2,598,041	2,868,032	△ 269,991	90.6
予備費	10,000	10,000	0	100.0

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額31億1,418万4千円は、内部留保資金(損益勘定留保資金及び消費税資本的収支調整額)で補てんします

(2) 平成22年度下半期の業務の概要

平成22年度は、降雨量が県下主要ダム地点で平年の103%となったものの、月ごとの降雨量の変動が大きかったため、1年を通じての実給水量は、契約水量に対し、69.1%(昨年度70.4%)となりました。

なお、平成22年度下半期も工業用水の安定供給のため、改良事業として厚東川改築事業などを実施しました。

また、平成21年度に引き続き、需要の開拓、料金の適正化等の経営基盤強化に取り組みました。

下半期における予算の補正については、収益的収入予算においては、営業収益の増加等により3,282万2千円の増額補正を、収益的支出予算において、特別損失の増加等により4万4千円の増額補正をしました。また、資本的収入予算においては、企業債の増等により2億4,515万円の増額補正を、資本的支出予算においては、長期借入金償還金の増等により7億7,636万2千円の増額補正をしました。

この結果、最終予算は、収益的収入において73億5,372万2千円、収益的支出において60億9,132万7千円、資本的収入において23億8,509万7千円、資本的支出において57億710万3千円となりました。

第16表 企業債及び一時借入金の状況(工業用水道事業)

区 分	発 行 総 額	償 還 額		平成22年度末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	56,138,600	3,797,019	30,507,902	25,630,698
小瀬川工業用水道	2,776,000	215,539	1,288,550	1,487,450
向道・川上工業用水道	1,086,000	49,790	456,414	629,586
周南工業用水道	8,763,000	248,297	1,525,299	7,237,701
佐波川工業用水道	695,000	24,709	215,860	479,140
厚東川工業用水道	6,642,000	284,824	2,565,159	4,076,841
木屋川工業用水道	4,368,000	267,545	2,090,020	2,277,980
生見川工業用水道	1,635,000	230,072	1,259,419	375,581
富田夜市川工業用水道	1,518,000	67,091	565,876	952,124
厚東川第2期工業用水道	2,462,000	138,180	1,377,226	1,084,774
厚狭川工業用水道	5,135,000	370,304	3,643,715	1,491,285
木屋川第2期工業用水道	5,539,000	391,337	4,482,146	1,056,854
末武川工業用水道	4,137,000	551,182	3,253,884	883,116
佐波川第2期工業用水道	2,931,000	369,407	2,365,037	565,963
小瀬川第2期工業用水道	8,451,600	588,742	5,419,297	3,032,303
一 時 借 入 金	—	—	—	0

3 総合医療センター事業

平成22年度下半期の業務の概要

公共医療機関としての使命と公営企業としての経済性の調和を図りながら、県民への医療サービスの向上に努めてまいりました。

下半期における予算の補正については、収益的収入予算において、8億6,463万6千円の増額補正をしましたが、これは、入院収益の増等によるものです。

また、収益的支出予算において、9億1,252万1千円の増額補正をしましたが、これは材料費の増等によるものです。

この結果、最終予算は、収益的収入において121億7,097万5千円、収益的支出において121億6,872万2千円、資本的収入において9億8,120万1千円、資本的支出において16億3,731万1千円となりました。

なお、県立病院（総合医療センター・こころの医療センター）は、将来にわたって安定的かつ効率的に良質な医療を提供していけるよう、平成23年4月から地方独立行政法人へ移行しました。

第17表 企業債及び一時借入金の状況(総合医療センター事業)

(単位 千円)

区 分	発 行 総 額	償 還 額		平成22年度末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	7,782,000	1,082,198	3,195,342	4,586,658
一 時 借 入 金	—	—	—	0

4 こころの医療センター事業

平成22年度下半期の業務の概要

公営企業として能率的かつ合理的な経営に努めるとともに、県下唯一の公立精神科病院として先駆的で良質な医療により精神障害者の治療と保護を推進し、県民の精神的健康の維持向上に努めてきました。

下半期における予算の補正については、収益的収入予算において、254万8千円の減額補正をしていますが、これは、入院患者数の減等によるものです。

また、収益的支出予算において、2,213万1千円の減額補正をしましたが、これは給与費及び材料費の減少等によるものです。

この結果、最終予算は、収益的収入において17億987万9千円、収益的支出において17億9,782万1千円、資本的収入において3,632万3千円、資本的支出において7,006万3千円となりました。

第18表 企業債及び一時借入金の状況(こころの医療センター事業)

(単位 千円)

区 分	発 行 総 額	償 還 額		平成22年度末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	4,555,000	60,352	113,137	4,441,863
一 時 借 入 金	—	—	—	0